
スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

竜斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

【Nコード】

N0044Z

【作者名】

竜斗

【あらすじ】

ついに第4弾を迎えた逃走中・・・。
舞台は、『オータムヴィレッジ』という里・・・。
22人の逃走者が、逃走中の幕を挙げる！！
果たして、逃げ切れる者は、誰だ！？

逃走者紹介（前書き）

作者さんからのリクエストは第4弾の外伝に受け継ぎました。

初めは、逃走者紹介・・・。

逃走者紹介

ローゼンメイデン（7）

水銀燈

相手を小馬鹿にするような猫撫で声だが、本気になると感情的になる。

冷酷非情で好戦的な性格。アリスへの執着心が非常に強く、ローザミステイカを集める為なら手段を選ばない。

ミッシェンにはあまり行かない。足は遅い。

金糸雀

頻繁に1人で外を出歩く、何度も真紅達を狙うなど、行動的で好戦的。

だが実際は策に溺れて自滅する事が殆どで、所謂ドジっ子。

それでも失敗にくじけず、自分なりに一生懸命取り組んでいる。

ミッシェンには内容次第で行く。足は遅い。

翠星石

所謂ツンデレな性格で、清楚で淑やかな容姿に合わずかなりの毒舌家。

更に天邪鬼で計算高く高飛車な為、ジュンから「性悪人形」と呼ばれている。

だが実は臆病かつ泣き虫で人見知りな為、すぐ誰かの後ろに隠れてしまう。

ミッシェンには内容次第で行く。足は遅い。

蒼星石

生真面目で寡黙。双子の翠星石とはいっても一緒だったが、自分自身をちゃんと持ち

「半身」ではなく「一人」でいられる彼女にはコンプレックスを持っている模様。

翠星石と二人きりの時にしか見せない表情もあったものの、その想いの深さの分だけ

羨みや憎しみも強く、翠星石と敵対した時は戦えることが嬉しいと言った。

ミッシェンには積極的。足はかなり速い。

真紅

女王様気質で誇り高く、マナーに厳しいが、契約者との絆を尊重する他、

仲間への思いやりもあり、桜田家に集う姉妹のリーダー的存在となっている。

常に冷静沈着で貫禄や威厳すら感じさせる言動も多い。

ミッシェンには時々行く。足は結構速い。

雛莓

泣き虫で甘えん坊かつ我侬で、姉妹の中でも特に幼稚な為、

翠星石から「チビ莓」等と呼ばれてからかわれているが、

ジュンや巴、姉妹への思いやりは強く優しい。

ミッシェンにはあまり行かない。足は遅い。

薔薇水晶

寡黙で無表情だが好戦的。舌足らずな話し方で、相手の言葉をそのまま真似る癖がある。他のドール達にアリスゲームを唆して、最終的にローザミステイカ全ての占有を狙う。ミッションにはあまり行かない。足は遅い。

プリキュアシリーズ（2）

新参戦の方々

日向咲

そこにいるだけで周囲をパツと明るくさせるムードメーカー的な性格で、舞の兄・和也には「真夏の向日葵みたいな子」と例えられた。その明るさから人と人とのパイプ役を無意識に務めることもしばしば。

ミッションにはあまり行かない。足はかなり速い。

前回からの引継ぎ

山吹祈里

おっとりとした性格でのんびり屋だが、自分に自信が持てず、少々引つ込み思案な所がある。そんな内向的な自分を変えようと、ラブ達の結成したダンスユニットに参加することを決意した。ミッションには積極的。足は遅い。

魔法少女リリカルなのはs t r i k e r s (3)

再参戦の方々

高町なのは

明るく優しい性格で強い正義感を持つが、辛いこと、悲しいことを抱え込んでしまう癖があり、一時期はそれが原因で彼女を心配する友人のアリサとケンカ寸前にまでなった。ミSSIONには積極的。足は遅い。

フェイト・T・ハラオウン

仕事振りも優秀な一流の魔導師だが、仕事を離れれば親友や子供たちに対して少々過保護なほど世話焼きな性格。ミSSIONには時々行く。足は遅い。

八神はやて

前向きで、優しい心を持った強い少女。しかし、なのはやフェイト同様、

辛いことや悲しいことを一人で抱え込む癖があり、シャマルがそれを心配する場面もあった。

ミSSIONには内容次第で行く。足は遅い。

スマブラx(4)

前回からの引継ぎ

マリオ

ラテン系らしく陽気で活発な雰囲気醸し出すようになっており、陽気、友好的、正義感が強い、身体能力が高い、有名人、オールラウンダーといったヒーローキャラクターとしての普遍的なイメージが少なからず出されている。
ミSSIONにはあまり行かない。足は速い。

再参戦の方々

ネス

イーグルランドにある小さな町、オネットに住む12歳の少年。一見ごく普通の少年だが、超能力を持っている。
おそらく幼いころから超能力を持っていたと考えられる。
ミSSIONには時々行く。足は速い。

ヤングリンク

コキリの森に住むコキリ族の中でパートナーとなる妖精が来ず、仲間^ミにそれを
からかわれながらも平穏な日々を過ごしていたが、妖精ナビィと出会^いい、
森の長であるデクの樹の死をきっかけに森を出て冒険に出る。
ミSSIONには時々行く。足は結構速い。

ソニック・ザ・ヘッジホッグ

冷静沈着だが、少し短気で、深く考えずに状況の中に飛び込むこともよくある。

しかし、彼の自信は揺るぎなく、それはいかなる困難を前にしても変わらない。

ミSSIONには時々行く。足は滅茶苦茶速い。

ぶよぶよ20th(3)

前回からの引継ぎ

アルル・ナジャ

魔導師の卵の女の子。天真爛漫、明朗活発、とにかく元気で、明るくさばさばした性格。純粹無垢だったりシビアで戦闘慣れしていたりする。遺跡探索が趣味。ミSSIONには積極的。足は速い。

再参戦の方々

アミティ

プリンプタウンの魔導学校に通う明るい女の子。

「赤ぶよ帽」を愛用しており、本人曰く、自分はこの子と運命を共にしているとのこと。

ミSSIONには時々行く。足は遅い。

あんどურიანი

理系人間で成績優秀、頭の回転が速い。ただし、本人曰く人名を覚えるのは苦手。他方、自分に出来ないことや解らないことがあると少し対抗意識を燃やしてしまう負けん気の強い面もある。

ミッションには内容次第で行く。足は遅い。

ロックマンx(3)

新参戦の方々

アクセル

純粹で、はつらつとしている。行動パターンもやや幼く無鉄砲なところがあるため、

当初は生真面目であるエックスと衝突が絶えなかった。

ミッションには積極的。足は速い。

再参戦の方々

エックス

平和を脅かす敵を倒そうとする「正義感」と、敵とは言え破壊することをためらう

「優しさ」を併せ持ち、この2つの挟間で揺れ動き、

思い悩みながら戦う様子が描かれ続ける。

ミッションには積極的。足は速い。

ゼロ

専用武器ゼロセイバーを用いて、倒した相手から技を学習する赤いレプリロイド。

エックスのよき理解者であり、戦友であり、先輩であり、

無二の親友であり、そして戦うことを定められた最大のライバルである。

ミッションには積極的。足は速い。

逃走者紹介（後書き）

次回は、準備中・・・。

オープニングゲーム？（前書き）

準備中が終わって、ついにオープニングゲームが始まる・・・！！

オープニングゲーム？

ここは、深夜の忍者の隠れ里・・・。

そう、ここで、逃走中のゲームが行われる・・・！！

とある場所に集められた22人の逃走者達・・・。

彼らはこれから、運命をかけ、恐怖のオープニングゲームに挑む・・・！！

ハンターまでは、22m。

逃走者は一人ずつ前に進み、鎖を引き抜かなければならない。

ただし、22本のうち1本は、ハズレの鎖・・・。

これを引いた瞬間、4体のハンターが一斉に解き放たれ、ゲームが、スタートする・・・！！

更に、22本のうち5本は、ドクロマークが着いており、ドクロマークを引くと、逃走者達は2mずつ前進しなければならない・・・。

全員

「いっせーのーでー！！」

全員が一斉に鎖を引いた。

アミティ

「つて、13番!？」

マリオ

「俺は22番かゝ・・・最後だな」

ヤング

「1番!？つわあ、最悪だ・・・!!」

アクセル

「15番・・・結構後の方だから回ってこないかも・・・？」

なお、鎖を引く順番は、くじ引きで決められる。全ては運任せだ・・・。

1人目は、ヤングリンク・・・。

リンクの子供時代。果たして、どうなるのか・・・。

マリオ

「何色だ？」

ヤング

「俺は・・・緑!」

ゼロ

「何でだ？」

ヤング

「自分の色だから」

翠星石

「よくある理由ですね・・・」

ヤング

「行くぞ！」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

ヤング

「うおらー！！」

ジャラッ

シーン・・・。

ヤングリンク クリア

ヤング

「ふう、良かったぜ・・・!!」

クリアした者は、離れた位置からスタート出来る・・・。

2人目は、翠星石・・・。

ローゼンメイデンのドールが、最初に立つ・・・。

蒼星石

「何色？」

真紅

「早く決めちゃって！もしかしたら」

翠星石

「せかさないで下さい！ここは薄緑です」

ネス

「何で？理由は？」

翠星石

「着てる服が薄緑に近いからです」

マリオ

「何か危険な予感がする・・・」

翠星石

「とにかく、行くです!」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

翠星石

「それっ！！」

ジャラッ

シーン・・・。

翠星石 クリア

翠星石

「ふう、良かった・・・ってドロマークついてるですう！！！」

ネス

「ええっ！？何て事してくれてんのっ！？」

翠星石

「これはその・・・運なんですう！」

ドクロマークを引いた為、逃走者達は2m前進した・・・。

ネス

「うわあ、結構近づいたな・・・」

蒼星石

「しょうがないですよ・・・あれに従わないと」

3人目は、アルル・ナジャ・・・。

魔道士の卵、鎖の前に立つ・・・。

雛莓

「アルル、何色？」

咲

「何色なの？」

アルル

「えっと・・・青！」

真紅

「何で？」

アルル

「僕の着てる色が青だから」

マリオ

「駄目だ・・・3人とも服の色かよ・・・」

アルル

「！とにかく行くよ！」

はやて

「危険かも・・・逃げる準備しといた方がいいかも」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

アルル

「うりゃっ！！」

ジャラッ

シーン・・・。

アルル・ナジャ クリア

アルル

「良かった、青引いて・・・ってまたドロマーク!?!」

金糸雀

「な、何てことをしてくれるのかしら!？」

薔薇水晶

「ありえないわね・・・どうしてくれるの・・・!？」

アルル

「そんな事言われても!！」

ドクロマークを引いた為、逃走者達は2m前進した・・・。

次に、4人目・日向咲が赤を引いてクリア。

次に、5人目・ネスが黄土色を引いてクリア。

次に、6人目・金糸雀が金色を引いてクリア。しかしドクロマーク・
・・・。

次に、7人目・ソニック・ザ・ヘッジホッグが橙色を引いてクリア。

次に、8人目・真紅がピンク色を引いてクリア。しかしドクロマー
ク・・・。

次に、9人目・エックスが黒色を引いてクリア。しかしドクロマー
ク・・・。

次に、10人目・薔薇水晶が薔薇色を引いてクリア。

ドクロマークが5本引かれた為、
逃走者達はハンターボックスまで10m前進した・・・。

マリオ

「うわっ、怖えっ!!」

祈里

「もう10m進んじやった・・・!!」

ゼロ

「もうちょっとで俺だ・・・!!」

果たして、ハズレの鎖を引き最初に捕まってしまう哀れな逃走者は誰なのか!?

オープニングゲーム？（後書き）

果たして、ハズレの鎖を引き最初に捕まってしまう哀れな逃走者は誰なのか！？

オープニングゲーム？（前書き）

果たして、このゲームの結果は・・・！？

オープニングゲーム？

11人目は、ゼロ……。

エックスのライバルでもあり、親友のレプリロイド、ここに立つ……。

蒼星石

「何色引くんですか？」

ゼロ

「結構これは悩むぞ……。」

フェイト

「早く決めて！」

ゼロ

「うるせえな……とりあえず、ここは薄橙色だ！」

水銀燈

「何か嫌な予感がするわ……。」

なのは

「逃げる準備を……!!！」

ゼロ

「やってやる……!!！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

ゼロ

「どりゃあっ！！」 ジャラッ

シーン・・・。

ゼロ クリア

ゼロ

「よし、ドクロマークはついてねえ・・・！！」

祈里

「良かった・・・もう出ないでしょ」

マリオ

「誰もハズレ引くなよ・・・！！」

12人目は、水銀燈・・・。

ローゼンミスティカを狙う、第1ドール・・・。

アミティ

「あの子、何か危険な臭いが・・・」

水銀燈

「失礼ね・・・私がハズレ引くとしても？」

りんご

「アミティ、失礼だよ・・・!!」

アミティ

「そうだったんだ・・・」

水銀燈

「とにかく、紫色を引くわよ」

フェイト

「紫・・・何か嫌な予感がするわ・・・!!」

水銀燈

「行くわよ!!」

クリアか・・・？

ハンター放出か・・・？

水銀燈

「はあっ!!」

ジャラッ

シーン・・・。

水銀燈 クリア

水銀燈

「皆・・・不幸ねえ・・・」

蒼星石

「小馬鹿にしてる・・・」

13人目は、アミティ・・・。

プリンプタウンに通う明るい女の子、ここに立つ・・・。

マリオ

「あいつ結構引きそうだな・・・」

フェイト

「もう誰でもいいから・・・!!」

アミティ

「それじゃあ・・・銀色!」

フェイト

「何か中途半端な色ね．．．どうしてそれを選んだの？」

アミティ

「なんとなく。思いつきで」

蒼星石

「絶対に引きそうです、あの人．．．!!」

マリオ

「逃げる準備を．．．!!」

アミティ

「行くよー!!」

クリアか．．．？

ハンター放出か．．．？

アミティ

「えいつ!!」

ジャラッ

シーン．．．。

アミティ クリア

アミティ

「良かった．．．銀色でも当たったんだ」

雛莓

「めちゃくちゃこわかったよー!!」

14人目は、高町なのは．．．。

魔導師のエース・オブ・エースがここに立つ．．．。

なのは

「いよいよ私の出番か．．．何色引こうかな？」

マリオ

「けどハズレは絶対に引くなよ．．．!!」

なのは

「わかってるって．．．!ここは黄色!」

はやて

「き．．．黄色．．．」

蒼星石

「何か危ない予感がします．．．!!」

なのは

「皆、絶対にハズレは引かないからね！」

クリアか・・・？ ハンター放出か・・・？

なのは

「ふりやつー！」 ジャラッ

シーン・・・。

高町なのは クリア

なのは

「やった・・・ドロマークは無い！」

フェイト

「良くやったわ、なのは！」

15人目は、アクセル・・・。

はつらつな性格のレプリロイド、ここに立つ・・・。

フェイト

「何色？」

アクセル

「そうだな．．．じゃあカーキ！」

はやて

「うわっ、絶対にハズレそうや．．．」

マリオ

「ハズレの可能性が滅茶苦茶高え．．．!!」

アクセル

「何？とにかく引くぞ！」

クリアか．．？ ハンター放出か．．？

アクセル

「どりゃあっ!!」 ジャラッ

ガコン!!!!!!!!!!

全員

「うわあああああ〜!!!!!!!!!!」

プシュー!!!!!!!!!!

4体のハンターが、放出された・・・。

ゲーム、スタート・・・。

ハンターの標的は・・・。

アクセル

「うわあああああゝ、来るなゝ!!」

アクセルだ・・・。

尚、アクセルはそのまま逃げ続ける。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

アクセル

「ぐあゝ!!」 ポンツ

> i 3 6 1 3 6 — 4 2 6 0 <

アクセル

「嘘だろ・・・!!?ここで終わるのかよ・・・!!?」

幸せばかりでは、無い・・・。

プルルルル

ゼロ

「何だ・・・！？『アクセル確保』やはりな・・・」

ヤング

「あいつ最初に確保されてるし・・・！！」

蒼星石

「何て事をしてくれたんですか、あの人は・・・！！」

翠星石

「あの人・・・新参戦の癖に・・・ほんとに・・・本当に何しに来たの・・・！！？」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

今回の逃走舞台は、『オータムヴィレッジ』。

季節は秋、忍者の隠れ里が舞台である。

更に、城も堀も立っており、まさに戦国の様だ・・・。

ゲーム時間は120分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、誰が生き残るのか・・・！？

オープニングゲーム？（後書き）

今回の逃走舞台は、『オータムヴィレッジ』。

季節は秋、忍者の隠れ里が舞台である。

更に、城も塀も立っており、まさに戦国の様だ・・・。

ゲーム時間は120分。逃走者達はこの狭いエリアから逃げ回る。

果たして、誰が生き残るのか・・・！？

ミッション1発動！（前書き）

ついに、本編が始まった・・・！！

ミッション1発動！

真紅

「ついに来た、逃走中・・・！！」

真紅は気合を入れる・・・。

雛莓

「足おそいからなう・・・うまくにげられるかなう？」

雛莓、自信があまり無さそうだ・・・。

ネス

「あつ、ハンターいるって・・・！！」

ネスはすぐに身を隠す。

ネス

「ハンター怖いぜ・・・！！」

ネス、ハンターに怯える・・・。

翠星石

「？あれはエックスとりんごが合流してるです・・・！！」

翠星石はすぐに身を隠す。

翠星石

「ロボットと人間が合流してるなんて気持ち悪いです・・・」

しかもロボットに恋してる人間なんて見た事がありませんです・
・!」

翠星石は2人に悪口を言い、余計気分が悪くなった・・・。

ヤング

「楽しつ・・・!!楽しいコレ・・・!!」

ヤングリンクは興奮して来る・・・。

ヤング

「2万・・・2万1千円・・・すげえ金たまっていく・・・!!」

祈里

「また再出演して貰ってるから、気を集中しないと・・・!!」

祈里は気を集中する・・・。

マリオ

「どうしようか・・・ん?あれはエックスとりんごか・・・」

マリオもすぐに身を隠す。

マリオ

「何故ロボットに恋を・・・」

マリオは小声で2人の悪口を言う。

エックス

「前は活躍してない奴等がどんどん捕まってるんだよな・・・」

りんご

「どうすんのこれ・・・？」

彼らの近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 1 4 8 — 4 2 6 0 <

ハンター

「！」

見つかった・・・。

エックス

「・・・！？ハンター来てる！！嘘だろう！？」

りんご

「嘘！？逃げるわよ！！！」

2人は一目散に逃げる。

ハンターの標的は・・・。

エックス

「チッ」

エックスだ・・・。

尚、エックスはそのまま逃げ続ける。

しかし彼がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

エックス

「うぎゃあー!!」 ポンッ

> i 3 6 1 4 9 — 4 2 6 0 <

エックス

「この俺が・・・やられるだと・・・!?!」

ロックマンxの主人公、早くもここに散った・・・。

プルルルル

りんご

「まさか・・・『湖付近にてエックス確保』

うわっ、確保されてるし・・・!!」

水銀燈

「あの人バカね・・・何もせずに捕まってるし・・・!!」

ネス

「ロックマンx組情けなさすぎる・・・!!」

薔薇水晶

「あら？この行列は・・・」

薔薇水晶は姫の屋敷にたどり着く。

兵士A

「ここからは立ち入り禁止だ。『黒い服』を着ている者以外は中に入る事が出来ない」

薔薇水晶

「そう・・・」

薔薇水晶は入るのを諦めた。

薔薇水晶

「何なのかしら一体・・・？」

その頃、姫が住む城にて・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「これはこれは、またお悩みの人がいるようですね・・・」

姫は城から出、人々を助けようとする・・・。

姫の前には・・・。

住民A

「姫様！お願いします！どうか、この米を・・・！！」

住民B

「私達を助けて下さい・・・!!」

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「焦らないで下さい・・・この秘法、『時の鏡』があれば」

姫は時の鏡を取り出す・・・。

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「・・・!!」

姫は呪文を唱える。

何と、沢山の米俵が姫と住民達の間に出現した！

住民A

「あ、ありがとうございます!!」

住民B

「このご恩は一生、忘れません!!」

姫（役：キャロ・ル・ルシエ）

「いいですよ・・・」

姫は微笑む。

その時、米俵が出現したと同時に謎の装置が出現した・・・。

姫の屋敷に、賞金減額装置が設置された・・・。

プルルルル

ゼロ

「何だよ、いきなり・・・！？『ミッション1』！？」

蒼星石

「『残り100分までに卑弥呼の屋敷にある賞金減額装置2台のレバーを両方下ろさないと』、

咲

「『以降の賞金単価が100円となる』ええっ！？これはヤバイって！！」

水銀燈

「『屋敷に入る条件は、黒服の着用あるいはワラ・果物の種のどちらかの持参』

・・・何この条件は・・・？」

このミッションでは住民からワラ・果物の種をもらう事になる。譲渡してくれる住民は限られており、入場には順番待ちも必要。

残る逃走者は、

水銀燈、金糸雀、翠星石、蒼星石、真紅、雛莓、薔薇水晶、咲、祈里、なのは、フェイト、
はやて、マリオ、ネス、ヤング、ソニック、アルル、アミティ、リ

んご、ゼロの20人・・・。

マリオ

「どうしようか・・・ここは行かない方が・・・」

ゼロ

「行くしかねえだろ、こりゃ・・・!!」

ヤング

「阻止する為にも、行かなければ・・・!!」

蒼星石

「行きます・・・!!」

翠星石

「難しそудから行きませんですう・・・」

祈里

「これは行かないといけないよ・・・!!」

なのは

「どうしよう・・・行こう」

アルル

「決めた、行く!!」

結構の数の逃走者が、ミッションに参加する様だ・・・。

雛苺

「もうちょつと楽かとおもつてたよ、このゲームは・・・
しかもめんどくさいミッションも出てくるしさあ・・・」

雛苺はトボトボとハンターに気をつけながら歩く。

だが、彼女の近くに、ハンター・・・。

> i 3 6 1 5 0 — 4 2 6 0 <

雛苺

「ここなら見つからないかも・・・ってハンター!？」

ハンター

「!」

雛苺の声で、見つかった・・・。

雛苺

「ぜつたいに逃げ切つてやるんだから!！」

雛苺は一目散に逃げる。

しかし彼女がハンターを振り切れる訳が無い。最早、逃走不可能・・・。

雛苺

「いや!！」

ポンッ

> i 3 6 1 5 1 — 4 2 6 0 <

雛苺

「もういやゝ．．．!!」

ローゼンメイデンのドール、早くも散る．．．。

ブルルルル

マリオ

「何だ何だ．．．!!?」『忍者の隠れ岩にて雛苺確保』

コイツは結構早く捕まりそうな予感がしたんだよねゝ．．．」

真紅

「雛苺確保．．．!!残り19人!?!」

ヤング

「雛苺も確保されたのか．．．!!」

アルル

「あの子にはもうちょっと頑張つて欲しかった．．．!!」

果たして、賞金減額を阻止出来るのか!?

ミッション1発動！（後書き）

果たして、賞金減額を阻止出来るのか！？

（賞金のおかしいというツッコミはなしでお願いします）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0044z/>

スマブラ×ゲームキャラ、アニメキャラ逃走中 『オータムヴィレッジ編』

2011年11月30日21時51分発行